



## ミュンヘン便り ～3倍速～

「春みたいですね」。この冬のミュンヘンでは、挨拶がここから始まります。12月になってからというもの、気温がずっとプラスで零下にならないのです。しかも、天気がよく、太陽光線を浴びながら散歩することができる、となると、気分はもうイースター。「春みたいですね」となるのです。

そんな春めいた新春のある日、同僚二人とともに、フィンランドの友人弁理士Mr. Mと4人でランチとなりました。我々の行きつけのランチスポットは、「カンティーネ」。もともとこの意味は、食堂という意味のドイツ語ですが、我々の「カンティーネ」は近くの役所にある食堂を指しています。政府が支援しているので、普通のレストランの半分弱の値段で食べることができ、チップも不要です。役所で働く人たちだけでなく、誰でも使うことができるので、リタイア組がそこで仲良く

集っていたり、子供たちが近くの学校から食事に来ていたりするのを目にします。味はどうかって？ まあまあですね。

フィンランドのMr. Mによると、「春みたい」なのは、ドイツだけではないようです。彼は、「クリスマス休暇に2週間、フィンランドに帰ったけど、雪が全然なかった。あんなの、クリスマスじゃない！」とぶつぶつ。彼が定義する「クリスマス」は、文字通り「真っ白」でなければならず、他の色が混入してはならないのです。

一緒に昼食を取っていた同僚A、「確かに、フィンランドはヨーロッパで一番寒い国のひとつだよ。そこで雪がなかったら、ドイツで雪があるはずだよ。ま、僕は自転車通勤だから、雪のない今年の冬はとってもハッピーだけどね。フィンランドはその代わりに、夏はないよね？ せいぜい20度くらいじゃない？」。



Mr. M、祖国の雪景色自慢から一転し、暑さ自慢へ。「フィンランドでも暑いときはあるよ。この間の夏、ヨーロッパで一番暑いところがフィンランドだった時があったんだ。あれは5月だったね。フィンランドではすでに30度を超えてたけど、ミュンヘンでは連日雨続きで、気温も15度くらいしかなくて、寒かったよ。」

ミュンヘンに限らないと思いますが、通常、5月は最も美しい時期の一つです。青空のもと、ライラックの匂いを乗せた新緑の風がふわっ。。。しかし、この間の5月は、ほぼ連日雨続き、特に週末は毎週雨で、ハイキングにもサイクリングにも散歩にも行くことができないという状態がほぼ丸1カ月続きました。その時、フィンランドは30度を超えていたというのです。



Mr. M、さらに続けて、「ちょっと北にあるXX湖では、何十年も前から、6月に湖の上でスキー大会を開催し続けてきたけど、今年は開催史上初めて開催不能になったんだ。5月の暑さで氷がかなり溶けちゃってね。」

同僚Aは、イギリスとデンマークのハーフで、私から見れば相当北方種族ですが、彼もこれにはびっくり。「6月に湖の上でスキーができるの!?!」

ブラジルとドイツのハーフの同僚H、心配そうに、「ねえ。冬のフィンランドって、全く太陽がないときがあるんじゃない?夏の白夜と対照的に。僕、耐えられないな。」彼はドイツの北部ハンブルグの出身で、私から見れば太陽光線が不十分なところで育った人なのですが、彼の頭の中の真冬のフィンランドは一日中真っ暗な様子。

Mr. M、フツと鼻で笑い、「それは、もっと北極に近いところの話。ヘルシンキだったら、そうだねえ、日が短いときは、3時過ぎから暗くなり始める。でもね、1月になると、毎朝3分ずつ日の出が早くなり、毎夕3分ずつ日没が遅くなる。1日6分、10日で1

時間日照時間が延びるわけだから、目に見えてそれを感じるよ。」

ちなみに、ミュンヘンだと、日の出、日の入りの時間はそれぞれ毎日1分ずつずれていきます。フィンランドでは、ミュンヘンのその3倍速ということになりますね。

## 筆者紹介

### 稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、新樹グローバル・アイビー特許業務法人及びGIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。

1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。

趣味は、山登り、ほっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。